

庭木に利用する樹種の特徴と管理

～ ナンテン ～

(一社)日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村正史

子供の頃、我家はもちろんのこと大半の家では便所のすぐ近くにナンテンが植えてありました。便所を利用するのは毎日のことですから手洗いの度毎にナンテンを見ていました。そのため、非常に身近な樹木の1つになりました。今回はナンテンを紹介します。

1 特徴

ナンテンはメギ科ナンテン属の常緑低木です。寒さにやや弱いという欠点がありますが、樹勢の強い樹木のため、日本各地で庭木として植えられています(写真1)。本州の西部から九州にかけて自生しています。しかし、渡来した栽培種が野生化したとの意見もあります。

ナンテンは5～6月に枝先に伸びた円錐状の花序(花の集り)に、白い小花が多数集まって咲くので目立ちます(写真2)。個々の花は6片で、中心には雌しべが、その周りには6個の黄色の雄しべがあります(写真2の左下)。10～11月になると、球形の赤い実をつけます(写真3の左)。白い実をつけるナンテンもあります(写真3の右)。両者を植えれば、紅白で鑑賞することができます。

日本では漢字の読み「南天」が「難転」に通じるという語呂合わせにより、江戸時代から縁起の良い木とされ、火災除けや魔除けのため玄関先、便所付

近、鬼門の方角に植えられます。全株、とくに実は有毒です。注意してください。生葉は防腐・殺菌作用があるため、赤飯や魚などに添えられることがありますが、食べないでください。



写真1 玄関前に植えられているナンテン(2024年7月1日撮影)。

2 維持管理

日当たりのよい場所では実のつきが良くなりますので、強い西日が当たる場所をさげ、できるだけ日当たりのよい場所を選んで植えましょう。

実を付けた枝は数年花をつけないので、実がついた枝を3から4月にかけて剪定しましょう。

病害虫は少ない樹木です。しかし、県内では葉の緑に紅色の病斑を生じるナンテン紅斑病が発生したことがあります(同僚の樹木医の鑑定により確認)。このような症状が発生すれば、発生落葉及び冬期の着生病葉を新葉展開直後に除去し焼却するとともに、発病初期である5月の連休明けから6月上旬の頃にトップジンM水和剤あるいはベンレート水和剤の1000～1500倍液を散布してください。



写真2 ナンテンの円錐状の花(全域:2024年6月26日)と拡大した花(左下:2024年6月27日撮影)。



写真3 ナンテンの赤い実(左)と白い実(右)。どちらも2021年12月6日撮影。